

令和4年度あいちラーニング推進事業研究報告書

学校名 愛知県立一色高等学校

校長氏名 手嶋 修一

研究テーマ	主体的で対話的な深い学びを推進する授業づくり	
本年度の研究目標	(1) 授業目標の設定の工夫と評価 (2) 授業実践の公開及び研究協議会での振り返りの実施 (3) ICT 機器を活用した授業展開の研究	
研究の実施内容		
実施月日	内 容	備考 (対象等)
令和4年		
5月30日	○前期授業公開週間(～6月17日)	全教職員
6月20日	○あいちラーニング推進事業に関わる訪問 ・授業参観と指導	国語科・理科
6月21日	○生徒「第1回授業アンケート」(～7月20日)	全教職員
8月3日	○第1回あいちラーニング推進委員会 ・課題の整理、計画の概要	推進委員 全教職員
8月22日	○校内現職研修 ・「ICT 機器を活用した授業実践」講師：ICT 支援員	全教職員
9月22日	○中堅教諭資質向上研修【後期】異校種体験研修 ・異校種への授業公開と意見交換	全教職員
9月27日	○学校評議員への授業公開 ・学校評議員からの高評	学校評議員 全教職員
11月7日	○授業公開週間(～11月24日)	全教職員
11月14日	○あいちラーニング推進事業第1回公開授業及び研究協議会 ○第2回あいちラーニング推進委員会 ・主幹校教諭訪問と情報交換等	全教職員 推進委員
11月14日	○生徒「第2回授業アンケート」(～12月22日)	全教職員
11月17日	○中学校との授業交流会 ・西尾市立一色中学校での授業参観、現職研修への参加 ・西尾市内中学校からの訪問、授業公開と研究協議等	参加希望者 参加希望者
11月29日	○ICT 推進委員会 ・令和5年度におけるロイロノートと Web 教材の使用について検討	ICT 推進委員
令和5年		
1月17日	○主幹校への訪問	研究主任
2月8日	○生徒「授業アンケート」の報告	全教職員
3月6日	○第3回あいちラーニング推進委員会 ・成果の確認、今年度のまとめ、来年度に向けて	推進委員
3月13日	○ホームページへの掲載 ○主管校への報告	推進委員

## 研究成果の評価及び普及・還元に関する実績

### 1 研究の成果について

「主体的で対話的な深い学びを推進する授業づくり」のために、具体的に3つの研究目標を立てて取り組んだ。それぞれの目標に対する取組と生徒「授業アンケート」について考察したい。

#### (1) 授業目標の設定の工夫と評価

本研究を始めるにあたり、全教職員へ授業の導入で生徒へ本時の目標を必ず明示し、生徒が目標に対する達成感を感じられる授業づくりをするよう共通の理解を図った。以上の観点で実施した研究授業等は、次のとおりである。

日時	令和4年10月24日	教科【科目】学年	芸術【音楽Ⅰ】1年
方法	生徒が喜びを感じられる教材の作成とグループ活動		
<p>技能の差が著しい実技（ギター四重奏）において、生徒がアンサンブルの喜びを感じられる教材の作成を目標とした。技能レベルが近い生徒同士のグループではなく、様々な技能の生徒が混在したグループで演奏活動を行うための譜面の作成について工夫した。年度当初から生徒の様子や能力を観察し、その観察結果を基に、各パートの難易度を生徒やグループ毎に柔軟に対応できるようにした。教材を工夫することで、楽曲の仕上がりの質、生徒の意欲向上に繋がった。また技能の異なる生徒同士でグループを組むため、互いに学び合う姿も多く見られ、コミュニケーション能力の向上も期待できると感じた。</p>			

日時	通年	教科【科目】学年	外国語【コミュニケーション英語Ⅰ】1年
方法	毎時間、目標を必ず板書する		
<p>年度当初、授業内のアンケートで「英語が嫌い・大嫌い」と答えた生徒が9割近くだった。何とか英語に関心をもってもらえるように、生徒が達成できそうな具体的な目標を毎時間、黒板に明示し、わかりやすい授業を展開した。また、授業の終わりに目標の達成状況について確認し、達成度が低い場合は次の時間に復習するようにした。2学期末の授業内のアンケートでは「英語が好き」となった。目標達成の小さな積み重ねにより、生徒は積極的に参加するようになった。</p>			

写真1【授業の様子】



#### (2) 授業実践の公開及び研究協議会での振り返りの実施

本校では以前から前期と後期で授業公開週間を実施している。教員同士で授業参観をした後、意見交換が活発にされている。また、各教科代表1名が研究授業を行うことになっている。これとは別に本年度は3人の初任者が研修の一環で年間7回の研究授業を実施した。『2 生徒「授業アンケート」の検証』でその成果を報告する。

さらに、新型コロナウイルス感染症の感染状況を判断しながら、あいちラーニング推進事業主幹校、校長会主催初任者研修、中学校の先生、学校評議員など校外に対して授業を公開することができた。授業参観後、授業に対する高評や質問等をいただく機会も設定できたことは授業改善のためにより機会となった。その際、ICT機器の活用についても具体的に情報交換ができた。令和5年度は保護者への授業公開を実施したい。

写真2【中学校交流会の様子】



本校では研究授業等で授業が公開されると教科学年に関わらず、多くの先生方が参観し、その後の感想や情報交換をしている姿をみることができる。授業公開週間や研究授業でなくても、ICT機器の活用方法等を自ら学ぶために参観を依頼している姿もあり、常に「授業づくり」について切磋琢磨している。

### (3) ICT機器を活用した授業展開の研究

8月22日、情報図書部の企画により、ロイロノートを活用した研修を行った。一人一台タブレット端末の普及前に大変役立つ内容であった。その後も授業に役立つ情報やトラブル時の解決方法等が適宜発信され、ICT機器も活用しやすい環境が整っていった。

推進委員を中心にICT機器を活用した研究授業が行われ、個々に対する高評を受けて授業の質を高めることができた。また、11月14日には主管校からの訪問により、研修授業の参観後、推進委員を中心に研究協議と情報交換等を行った。ICT機器を活用した研究授業と通年の授業と、振り返りの一部は下記のとおりである。

今後、ホームページ等を活用し、取組内容を広く還元していきたい。

日時	令和4年11月7日	教科【科目】学年	家庭【家庭総合】1年
方法	パワーポイントの内容をプロジェクターで投影		
<p>板書の内容を投影することにより時間の短縮ができ、生徒が待つことがなくなった。画像や動画などを見せることができたため、生徒も興味関心をもっている様子がみられた。一方で、動画は字幕が読みづらかったり、ホワイトボードが反射したりと見にくい部分があったため、生徒個人のタブレットに配信することも検討したい。</p>			

日時	令和4年11月14日	教科【科目】学年	数学【数学I】1年
方法	ロイロノートのカードによる提出利用など		
<p>小テストの実施(提出、丸付け、返却)、図への書き込み・タブレットへの配信、データの提示、授業アンケートの実施を行った。タブレットへ配信する場面では生徒自らが手元で見られることに有用性を感じた。ホワイトボードに書ききれないデータの提示も時間短縮となった。授業最後のアンケートでは「すべて理解した」「ほぼ理解した」と回答した生徒が9割以上であった。また、その場で聞けない疑問等がアンケートの質問欄に記入されており、次回へのフィードバックがしやすかった。</p>			

日時	令和4年11月16日	教科【科目】学年	保健体育【保健】1年
方法	ロイロノートでのグループ発表		
<p>調べ学習、作成テキスト提出・グループ発表資料作成、グループ発表をタブレットで実施した。プリントの収集配布の労力がなく、提出物の確認ができた。また、タブレットの画面共有ができ、発表を集中して聞かせることができた。生徒の振り返りから、「楽しかった」「タブレットでの授業を増やしてほしい」との声があった。</p> <p>ロイロノートの導入を丁寧に行う必要性を感じた。操作から資料のまとめ方まで各教科で連携を図っていくことにより、さらに効果的に活用できる。</p>			

日時	令和4年12月7日	教科【科目】学年	外国語【コミュニケーション英語II】2年
方法	ロイロノートのカードの活用		
<p>調べ学習、英文の解説、小テストをタブレットで実施した。ロイロノートのカードに本文を書き、生徒と共有した。生徒はカードに書き込みができるため、タブレットを使ってメモを取らせた。メモはペンの色を変えることができるため、生徒は興味をもって取り組んでいた。プリントの収集と配布の労力はなくなったが、生徒は考査期間中の自宅学習の際にタブレットを使用できないため、本文の解説を復習することが難しいということに気が付いた。タブレットの持ち帰りについて柔軟に対応する必要がある。ロイロノートを使った授業では、生徒は集中して取り組んでいるため、さらに効果的に活用できる方法を探していきたい。</p>			

日時	令和4年12月13日	教科【科目】学年	国語【古典A】3年
方法	ロイロノートでのシンキングツールの活用		
<p>調べ学習、グループ発表資料作成、グループ発表をタブレットで実施した。生徒自身の考えや情報を視覚化し、整理するためにロイロノート内のシンキングツールを用い、異なる二種類の文章を比較した。授業でロイロノートを導入したことにより、グループでの意見共有がスムーズに行うことができた。発表の様子から、生徒が主体的に学ぶ姿勢が見られたため、引き続き活用したい。</p>			

日時	令和4年12月19日	教科【科目】学年	理科【物理】2年3年
方法	ロイロノートに実験の予測をさせ、検討に活用		
<p>ロイロノートで物理学実験の予測、実験結果のデータ、実験動画など各種カードを共有することで物理的思考力の向上することを目標とした。実験結果の予測では、事前学習させた内容を物理学の式を含めて発表させることでプレゼンテーション能力の向上に繋がった。実験データ・動画をそれぞれで物理的に考察し、発表させることで、思考力の向上に繋がった。ロイロノートは意見の集約とデータの共有で活用でき、円滑に発表させることができるので、主体的に発表する場を設けることができた。</p>			

日時	令和5年1月13日	教科【科目】学年	国語【現代文B】3年
方法	ロイロノートでのリフレクションカード		
<p>ロイロノートの共有機能を使って生徒の記述を共有することで、記述力向上を目指した。ワークシートを活用していたときは、書くように指示しても解かない生徒がいたが、ロイロノートを活用することにより取組がよくなった。生徒の意識を確認するために「ロイロノートを活用する以前と比較して授業のやる気はどう変化したか」、「ロイロノートを活用する以前と比較して記述はどう変化したか」というアンケートを行った。アンケートの結果、35人中18人が「やる気が上がった」と回答し、17人が「記述力が上がった」と回答した。自由記述から、「他の生徒の記述を見てもっと良い文章書こうと思った」、「他の生徒の書き方を参考にして次に生かそうと思った」、「簡潔で分かりやすい他の記述を見て、自分も分かりやすく書くように努力した」など記述に対する意識や書き方の変化を見ることができた。実際に生徒の記述も以前と比較して具体的になり、他者を意識した記述をするようになった。</p>			

日時	令和5年1月18日	教科【科目】学年	地歴公民【日本史B】2年
方法	ロイロノートを使った資料分析		
<p>ロイロノートの機能を活用して「一遍上人絵伝」の備前福岡市の場面での分析と絵解き、及び分析結果を文字表現し提出することにより言語活動の充実を図った。提出のあったレポートに対してはルーブリックを設定し4段階で評価した。またこの内容を定期考査に記述形式で出題した。結果、鎌倉時代の市の成立過程と立地について大半の生徒が合格といえる内容であった。教材の魅力をしっかりと伝えることができたと感じている。</p>			

日時	通年	教科【科目】学年	地歴公民【地理A・地理B】2年3年
方法	タブレットによるロイロノート、Web教材の活用		
<p>タブレットを用いて国土地理院の電子地図を活用して学ぶことができている。国土地理院の電子地図では、任意の場所の断面図を作成することができる。この機能で一色高校の断面図を作成すると、水害の時に学校周辺がどうなるかが予測できるなど、紙の地形図を利用した授業ではできなかったことが可能となっている。また、各教科書会社やNHKのコンテンツなども画像や動画が豊富で、歴史像理解に大変有効である。ICT機器は、主にパネルやスライドに代わる教材提示装置として活用している。ロイロノートまで活用すると、教員と生徒の双方向でのコミュニケーションが図れる他、作業の成果を記録に残すことができ、後日の評価に役立っている。</p>			

日時	通年	教科【科目】学年	外国語【コミュニケーション英語Ⅰ】1年
方法	英単語習得のためのプレゼンテーションソフトの活用 英会話フレーズ紹介サイトの活用		
<p>英単語修得のためにプリント形式の小テストを行っていたが、学習への意欲が見られなかった。PowerPointを使ったクイズ形式に変更したところ、質問と答えのテンポが良く、生徒が主体的に取り組むようになった。また休み時間に英単語を学習している姿が多く見られるようになった。</p> <p>Webサイトを利用することにより、映画などで実際に使われるフレーズを学ぶことができるため、生徒の英語への学習意欲を高めることができた。</p>			

写真3【物理の授業で生徒が発表する様子】



写真4【板書を投影した授業の様子】



## 2 生徒「授業アンケート」の検証

1学期と2学期に実施した生徒「授業アンケート」では質問8項目について4段階で回答し、最後に自由に感想や要望を記入させた。授業担当者がアンケート結果をレポートとしてまとめ、情報図書部に提出している。

情報図書部ではレポートを分析し、職員会議で報告することにより、校内の授業改善に役立っている。アンケートの内容は資料1のとおりである。

アンケートの中で生徒が授業を評価した項目の件数は資料2のとおりである。生徒が一番多く評価した項目は「聞き取りやすさ」で、反対に生徒が評価しなかった項目は

「意欲的な取組」であった。教員は1回目のアンケートの結果を受けて、それぞれ授業改善を図っているが、「意欲的な取組」が2回目において減少している。また、生徒の意欲を引き出すことは授業への主体的な取組へ繋がると考えるため、今後、課題としていきたい。

資料1【生徒による授業アンケートの内容】

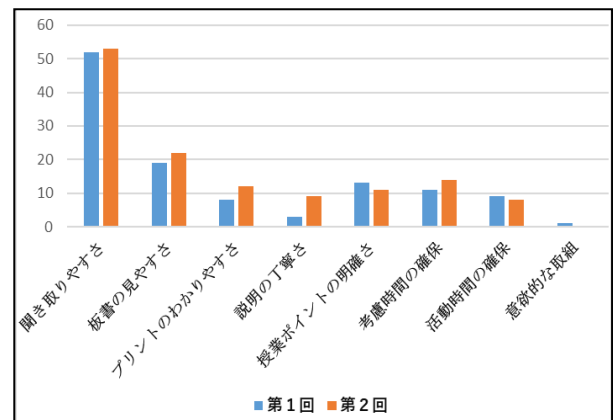
(別紙2)

生徒による授業アンケート

愛知県立一色高等学校

年 組 科 目	教科担任	先生
このアンケートを、今後の授業の実施や改善に役立てたいと考えています。貴重な意見を聞かせて下さい。各項目について、次の中から最も当てはまる番号を右の回答欄に記入してください。		
		回答欄
1 先生の発声・声の大きさは聞き取りやすい	①よく当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない	□
2 黒板の書き方は見やすく整理されている	①よく当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない	□
3 授業で配布されるプリントは、よく整理されていてわかりやすい	①よく当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない	□
4 授業の説明は丁寧で工夫されており、わかりやすい	①よく当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない	□
5 授業内容のポイントがはっきりしている	①よく当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない	□
6 授業中、問題等に対して自分で考える時間が確保されている	①よく当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない	□
7 授業中、活動する時間（ペアワークやお互いに学び合う等の時間）が確保されている	①よく当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない	□
8 あなたは今学期、意欲的に授業に取り組んだと思う	①よく当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない	□
9 今後の授業改善に役立てたいと思いますので、授業に関する感想、要望があれば書いてください		

資料2【生徒が授業を評価した項目】



(1) 「授業づくり」 に対する記述

職員の振り返りから「授業づくり」 に対する記述は次のとおりであった。

- ・授業の進度を考え、なかなか生徒に考えさせる時間が取れなかった。
- ・ペアワークやグループワークを積極的に取り入れるように心掛けたため、前回から評価が上がった。
- ・ペアワークにより考慮時間は評価されたものの、生徒の意欲は高まらなかった。
- ・ペアワークは少ないという生徒がいる反面、必要ないという生徒もあり、生徒の動向にきちんと配慮していきたい。
- ・始業前の会話や授業をとおして生徒の心を掴み、互いの信頼関係を構築することが生徒の学ぶ意欲にも効果が現れてくると考える。
- ・誰でも質問しやすいよう、悩んでいる生徒がいたら個別に声をかけていきたい。

教員同士の振り返りを共有することにより、「授業づくり」について気づかされることも多くあった。授業の形にとらわれるだけでなく、生徒と教員の信頼関係の中で「授業づくり」をしていきたい。

(2) ICT 機器に関する記述

生徒の意見・要望の中で、ICT 機器に関する記述は次のとおりであった。

- ・プロジェクターを使用することにより、説明しているところがわかりやすい。
- ・情報が多いとわかりにくい。
- ・ロイロノートを利用しているところがよい。
- ・タブレットを使うと目が疲れるし、ノートに整理しにくいのでプリントか板書にしてほしい。

生徒からの貴重な意見として受け止め、目の前にいる生徒の反応を確認しながら、互いに授業づくりをする必要性があることを再認識したい。

### 3 まとめ

今年度は生徒へ一人一台タブレット端末が普及され、2学期から本格的に授業や総合的な探究の時間、ホームルーム活動等で利用することができた。本研究においてはタブレット端末をはじめとした ICT 機器を授業で利用することが目的にならないように留意し、「主体的で対話的な深い学びを推進する授業づくり」を目指して取り組んだ。全ての教科において研究授業が実施され、さらに校外に向けて授業を公開することにより、お互いに授業の質を高め合う機会を多く設定することができた。報告の多くが ICT 機器を利用した授業となったが、ICT 機器を利用しない授業においても、目標を達成できた取組はあったと考えている。しかし、結果としてタブレット端末の活用に着目することとなってしまった。次年度は、「生徒アンケート」を活用して、授業全体を検証できるよう、アンケート内容をさらに精査したい。

また、来年度に向けて、タブレット端末の使用方法、情報モラル、ロイロノートの使用方法等の ICT 機器を活用した授業についてカリキュラムマネジメントの作成を目標の一つとし、生徒の学びの繋がりを意識した実践をしていきたい。